

地小出版  
方小版

情報誌

アクセス

毎月1回	1日発行
購読料	定価 150円 (本体 143円)
	年間 1,500円 (税込み)
振替	00120-0-19017

発行所 (株)地方・小出版流通センター  
編集 アクセス編集委員会

〒162-0836 東京都新宿区南町20  
TEL.03-3260-0355 FAX.03-3235-6182

## ナチュラルー faura 北から発信する自然雑誌の6年間と今後

文・大橋 弘一

### ■「アニマ」「シンラ」を復活したい

自然雑誌「ファウラ」を創刊しようと思いついた7年前、我々関係者が常に意識していたのはかつて一世を風靡した平凡社の動物誌「アニマ」であり、新潮社の自然誌「マザー・ネイチャーズ」であった。

今西錦司氏・中西悟堂氏監修による「アニマ」は1973年に創刊、動物の生態を科学的に解説し、目を見張るような生態写真とともにそれまでにない"自然を知る"趣味の世界を創造した雑誌であった。根底には自然保護的思想が流れ自然の尊さを私たちに教えてくれたが、1993年に休刊となった。「マザー・ネイチャーズ」は1990年に「小説新潮臨時増刊」として刊行された自然グラフ誌で、大人っぽくお洒落な雰囲気でもナチュラルリストたちの熱烈な支持を得た。好評により不定期刊行雑誌となり、3年目の第7号をもって月刊「シンラ」へと進化したが、さらに6年後の2000年に休刊に追い込まれた。「アニマ」も「マザー・ネイチャーズ」も自然写真、特に動物写真の分野への貢献は多大で、星野道夫氏・今森光彦氏・岩合光昭氏・嶋田忠氏など第一線で活躍する多くの自然写真家がこれらの自然誌によって育てられたと言われている。

これらの名雑誌がいずれも休刊(実質廃刊)されてしまった理由は、結局は部数の減少とそれに伴う採算割れだろう。ではなぜこういう雑誌を人々は買わなくなったのか。これら自然誌が廃刊に追い込まれた20世紀末は、皮肉にも「自然が好き」「自然を大切にしたい」という声が高まり始めたタイミングに一致する。考えてみれば不思議なことだ。

そんな謎は別として、多感な時期を「ア



faura 2009 summer No.24

ニマ」とともに過ごした世代としては、自然雑誌のない社会は寂しい限りである。昆虫など特定の分野だけでなく、総合的に自然全体を見渡す懐の深い雑誌の存在こそが現代社会に求められているように思われてならない。大手出版社もどこもやってくれないのなら自分たちの手で作ってしまわないか。そんな大胆な発想で「ファウラ」を創刊したのは「アニマ」休刊から10年後、「シンラ」休刊からも3年経った2003年のことであった。

### ■6年前の創刊から今日への足跡

大手出版社が"失敗"してきた現実がある以上、同じ轍を踏まないためには大きく何かを変えなければならない。そこで、札幌から発信する「ファウラ」では基本的に北海道の自然だけを扱うことをコンセプトにした。地域限定の内容とし、その分動植物から気象・天文に至る自然の全てを扱い、質の高い自然写真誌とし

ての価値ももたせることにした。また、発行部数はもちろん大手がやるような規模には及ぶべくもないが、原価計算を綿密に行なうことによって採算が取れる規模を算出し、背伸びしないことを心がけている。

幸運にも当初から某通販会社が大口スポンサーとなってくれたため2003年9月に年4回発行の季刊自然誌としてすんなり創刊できた。以来、その通販会社は4年間にわたって共同事業者として小誌を支えてくれ、今も毎号数百冊をインターネット販売している。

創刊時から苦勞してきたのは広告営業で、最初は「いつまで続くかわからない」的な見方をされて足元を見られ、ずいぶん悔しい思いもした。6年間・計24冊を既に刊行した現在ではさすがにそういうことは言われなくなり、逆に続けていること自体が信頼につながっている。最近ではファウラの編集発行元であるために受注できる写真提供の仕事も増え、ファウラの内容が信頼されていることを実感している。まさに「継続は力」なのだ。これまで扱った特集は多岐に及ぶが、販売面で成功した号は「エゾモモンガ」「ナキウサギ」といった"可愛い系"動物や「ブラキストン線」「ゼフィルス」などマニアックな題材のもの。さらに直近の「礼文島・利尻島」ではスポンサー獲得面でのコツもつかんだ。

### ■脱・北海道オンリーへの道

ファウラは、一見ただでわかる人にはわかる魅力を秘めているが、いわゆる娯楽の雑誌ではないために損をしているところがある。愛読者からも「堅い」「教科書的」「読むのに力がいる」などと評されるが、研究者による最先端の科学知識も掲載するからそうした評価はある程度は致し方ない。むしろ、世の中が安直な方向へイージーに傾きつつある昨今、きちんとした文章によって知識を得る面白さを持ち味にした雑誌があっても

いいだろう。これからも"知る楽しさ"という本当の面白さを追求し続けていきたい。

ただ、方向転換があるとすれば、それは"ファウラ・ジャパン"への道だ。今のファウラは「北海道の自然」を深く掘り下げる雑誌であり、このコンセプトは営業的には観光産業に大きな貢献ができる内容だと自負している。にもかかわ

らず、北海道庁など観光に関わる行政や団体からは思うような支援は受けていない。制作者集団である小社は創刊当初から営業力が弱く、なかなか小誌の魅力を伝え切れていないためと思われるが、北海道の会社だからといって北海道だけを対象とするばかりが能ではない。北海道の観光振興に役立つ内容メリットがいつまでも行政に理解されないのであれば、

これまでの6年間の蓄積をベースにして全国版の内容に切り替えることもひとつの方向性ではないかと考えている。

地域限定でない日本の真の自然雑誌へ。それが実現した時こそ「アニマ」や「マザー・ネイチャーズ」を現代に復活させたことになるのかもしれない。

(おおし こういち/ナチュラルーfaura 編集長)

## 新刊ダイジェスト

※価格は総額(税込)表示です。

### 『病床の賢治 一看護婦の語る宮澤賢治』 ●大八木敦彦著



1923年に宮澤賢治が37歳で没して70年以上たつ今日、生前の賢治を知る人はほとんどいないと思われる。ところが、著者の親類の女性の伯母Tさんが賢治が花巻の実家で療養していた際に彼の看護を頼まれたという事実がわかり、著者はTさんに直接話を伺えることになった。話を聞いた2年前、Tさんは98歳という高齢であったが、昔の出来事を子細に語ってくれた。本書はおそらく生前の賢治を知

る最後の生き証人であろうTさんの談話を元に病床で書いた詩作「疾中」を中心に晩年の賢治の創作活動を探る。いつも感謝の念を忘れなかったという賢治。Tさんにとっての賢治は天才詩人ではなく、一人の病人だった。だからこそ、当時の生身の姿が甦る貴重な証言となっている。

◆735円・A5判・77頁・舩燈社・東京・2009/3刊・ISBN978-4-87782-091-6

### 『農村へ出かけよう 一農都共生と食育のすすめ』 ●林 美香子著



農業と農村は、単に食料を生産するだけの場ではない。たとえば都市住民が、緑と土の多い心地よい美しい景観と環境の中でゆったりと過ごすことによる癒しの効果。本書では、この農業と農村の持つ多面的な魅力を、北海道各地や先進地のフランスを訪ねて紹介する。

具体的には農家民宿、農家レストラン、農業体験や農産物販売所といった形をとおして、都市住

民が農村で過ごすことをグリーンツーリズムという。こうした農村と都市の共生「農都共生」の環が広がれば、お金も疲弊する農村に還流し、農村の人も都市の人ももっと心豊かになれるはずだ。そのためには、都市住民はとにかく「農村へ出かけてみよう」と著者は呼びかける。

◆1050円・四六判・177頁・寿郎社・北海道・2009/6刊・ISBN978-4-902269-35-2

### 『小説家の開高さん』 ●渡辺裕一著



サントリー一缶ビール「ペンギンシリーズ」など多くの名作を手がけたコピーライターの文芸書デビュー作。文豪・開高健との交流を描いた表題作、今話題の蟹工船の乗船経験をもとにした「土方のマサ」、日本の骨董に魅了されたジョン・レノンの秘話を明かす「骨董屋の善二さん」など十篇から成り、人生の巡り合わせや偶然の不思議さ、一期一会の妙を感じさせてくれる。釣りの季刊誌に

書きついできたものをまとめているだけに釣りの描写が多いが、中でも永年のファンであった開高健を“釣りは余りうまくなくとも、釣り人として最上級のひとであった”と表現した著者の思いが溢れる短編集。

◆1800円・四六判・215頁・フライの雑誌社・東京・2009/6刊・ISBN978-4-939003-35-6

### 『京もキノコ！一期一会』 ●高山栄著



あってもなくても生態系に及ぼす影響はないと思われがちキノコだが、「不要なもの無駄なものなど一切ない」のであり、地球上では枯れた木を分解して土に戻す役割を担う。キノコは生物の分類では菌類と呼ばれるが、通常私たちが目にするのはその「花」で、孢子(植物の種子にあたる)を飛ばすために出現する。

本書は主なキノコ70種について、美しいカ

ラーの細密画を掲げ、大きさや出盛る時期、どんな所に出やすいか、またアク抜き法や調理法等の基本データはもちろん、キノコにまつわるエッセイがすばらしい。マツタケより美味なクリタケやハタシメジの話、日本で初めて発見したトリュフの話、山のサーモン・マスタケの話など尽きない。

◆1575円・A5判・159頁・京都新聞企画事業・京都・2009/6刊・ISBN978-4-7638-0625-3

# 売行良好書

期間：2009年7月16日～8月15日

## 【出荷センター扱い】 ※税込み価格

- (1)『イエスの涙』1995円・アートヴィレッジ (2)『作っておくと、便利なおかず』1260円・ベターホーム出版局 (3)『ゆりちかへ』1365円・書肆侃侃房 (4)『絶景・珍景 ニッポン百景』1050円・アートヴィレッジ (5)『S F本の雑誌』1575円・本の雑誌社 (6)『身近な植物観察のポイント』2940円・トンボ出版 (7)『おかしな おかしな おかしのはなし』1575円・リーブル (8)『いい会社をつくりましょう。』1260円・文屋 (9)『中国情報ハンドブック 2009年版』3150円・蒼蒼社 (10)『ぐるぐるブサン+済州島』1365円・書肆侃侃房 (11)『飴と飴売りの文化史』2100円・弦書房 (12)『アルコール依存症 家族読本』1680円・アスク・ヒューマン・ケアー (13)『気まぐれバス旅出発進行』1890円・クラッセ



## 【三省堂書店神保町本店4F—センター扱い図書】 ※税込み価格

- (1)『東京かわら版 No. 428』420円・東京かわら版 (2)『決戦！ 八王子城』735円・揺籃社 (3)『昭和プロレスマガジン 18』1000円・昭和プロレス研究室 (4)『よみがえる滝山城』735円・揺籃社 (5)『なまら蝦夷 7号』800円・松岡つとむ (6)『WALK 58』720円・水戸芸術館 (7)『とほ 2009 - 2010』420円・とほネットワーク旅人宿の会 (8)『越後 替女ものがたり』1575円・岩田書院 (9)『ふくしまの古戦場物語』1600円・歴史春秋社 (10)『どすこい 出雲と相撲』1500円・ハーベスト出版

## 【ジュンク堂書店新宿店—センター扱い図書】 ※センター出荷データより/税込み価格

- (1)『S F本の雑誌』1575円・本の雑誌社 (2)『スコットランド日記』1680円・本の雑誌社 (3)『都筑道夫の読ホリディ 上巻』2625円・フリースタイル (4)『都筑道夫の読ホリディ 下巻』2625円・フリースタイル (5)『東京かわら版 No. 428』420円・東京かわら版 (6)『なぜ、北海道はミステリー作家の宝庫なのか?』1680円・亜璃西 (7)『今夜もイエーイ』1680円・本の雑誌社 (8)『子ども心と学校臨床 第1号』1470円・遠見書房 (9)『聴いて学ぶ韓国語会話』1890円・あるむ (10)『刺しゅうで旅するヨーロッパ2』1575円・カラーフィールド

以下ホームページでも各種情報提供を行っております。ご利用ください。  
<http://www.bekkoame.ne.jp/~much/>

# トピックス — ★★

## ▼『谷中・根津・千駄木』終刊

2年前から予告していたとおり、タウン誌の先駆け的存在だった『谷中・根津・千駄木』が8月上旬刊の93号をもって終刊となりました…と思いきや、原稿の分量が多すぎてこの号にはすべて収まりきらず『幻の94号』が8月下旬に刊行されることとなりました。これをもって本当に最後となるようです。創刊は1984年10月。一時は1万2千部に達することもあったと言いますが、ネットの普及もあってか最近では6千部ほどになっていたとか。亜紀書房からは25年間を凝縮したベスト版『ベスト・オブ・谷根千 一町のアーカイブス』が1月に刊行されています。

## ▼地方出版物で知る全国ご当地情報

7月27日～9月26日までの期間、東京九段の千代田図書館において、企画展示『地方出版物で知る、全国ご当地情報』を開催しています。「千代田区内には、各地方以外での流通の少ない地方出版物を扱う書店や施設、日本全国のアンテナショップなどが数多く集まっています。今回の展示では、地方出版物の存在を知っていただくと共に、地方の情報拠点が千代田区内にあることを知っていただき、それらから得た情報を様々なカタチで利用していただくことを目的としています。」(千代田図書館ホームページより)。この展示では「地方出版物を扱う書店」として神保町の三省堂書店や東京堂が、他のアンテナショップとともに紹介されています。

## 郵便販売のご注文方法

◎お名前、お届け先（郵便番号、住所）、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までFAXでご連絡ください。

◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせていただきます。基本的にメール便は、一冊210円でお送り致します。(メール便の到着は、発送してから3～4日かかります。)お急ぎの方、その他ご要望がございました場合はお気軽に下記までお問い合わせ下さいませ。

◎なお書籍お買上総計(税抜き価格)が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせていただきます。

## ★地方・小出版流通センター

FAX：03-3235-6182

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。



# 三省堂書店

BOOKS SANSEIDO

**神保町本店 4階**  
**地方出版・小出版物フロア**

営業時間 10:00 AM～8:00 PM  
 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1  
 TEL. 03-3233-3312(代)  
 URL. <http://www.books-sanseido.co.jp>

営業の  
ごあんない

本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。

